

## 健康づくり・スポーツ推進特別委員会行政視察概要

- 1 視察月日 令和4年7月21日（木）～7月22日（金）
  
- 2 視察先及び視察事項
  - (1) 岡山県岡山市  
高齢者を中心とした健康づくりの取組について
  - (2) 兵庫県伊丹市  
健康長寿社会実現に向けた健康づくりの取組について
  
- 3 視察委員  
委 員 坂 本 勝 司

## 視察概要

### 1 視察先

岡山県岡山市

### 2 視察月日

7月21日（木）

### 3 対応者（役職名）

議会事務局調査課副主査（挨拶）

保健福祉局保険福祉部医療政策推進課医療福祉戦略室長（説明）

保健福祉局保険福祉部保健管理課課長補佐（説明）

### 4 視察内容

#### （1）高齢者を中心とした健康づくりの取組について

##### ア 特別特区高齢者活躍推進事業

平成25年以降、岡山市では、高齢者が介護を必要としてからも、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会の構築をコンセプトに、在宅介護を推進する総合特区事業である、AAAシティおかやまを展開している。

また、高齢者活躍推進事業の第二期計画を平成30年から開始している。身体の自立と心の自立（生きがいづくり）を目的に、介護事業所における就労・社会参加活動を行い、高齢者が元気になって活躍できる、真の自立実現に向けて取り組んでいる。

岡山市において、平均寿命と健康寿命の差（健康でない状態で過ごす期間）は、男性が約10年、女性が約14年と推計しており、健康寿命を延ばすことができれば、平均寿命も延びることから、健康寿命の延伸を図るために、この期間の過ごし方に着目して課題解決を進めている。

##### イ ハタラクガイド

岡山市は、要支援・要介護になっても生きがいを持つことが出来る地域づくりに向けた取組として、高齢者活躍推進事業「ハタラク」を展開している。

取組をより広げていくために、介護事業所が「ハタラク」を実施するにあたってのポイントや、令和3年度事業の実績をまとめたガイドを作成し、施設や市民に広報している。

認知症高齢者の働く場所の提供と、働いている方などの報告だけではなく、なぜ社会参加が必要なのか、実現するまでの道のりなど、知識の共有と課題を認識できる構成となっており、働く選択肢を増やすためのガイドになっている。

#### ウ S I Bを活用した健康ポイント事業（おかやまケンコー大作戦）

S I B（S o c i a l I m p a c t B o n d）とは、民間資金を活用して、革新的な社会課題解決型の事業を実施し、その事業成果（社会的コストの効率化部分）を支払いの原資とすることを目指すものである。

岡山市では、日本初の複数事業者によるサービス提供として、中国銀行、P S瀬戸内、社会的投資推進財団と連携し、健康ポイント事業を展開している。総事業費は、5年間で約3億7000万円の見込みとなっている。

令和4年度のおかやまケンコー大作戦は、18歳以上の岡山市在住、在勤、在学の人を対象として事業を展開している。具体的な取組として、

- ・ぐるっとおかやまスマホdeウォークラリー（歩く）
- ・月イチ！ケンコー大作戦（体験する）
- ・ウェブ健康コラム（知る）

といった事業を行っており、それぞれの事業に参加することで、特典が得られる。

#### エ 質疑概要

Q 認知症高齢者の働く環境をつくることの狙いは何か。

A 障害者就労支援などは、全国的にも各自治体が力を入れて取り組んでいると考えている。岡山市としては、今まで社会のために働いてきた高齢者の方々が、一つの区切りが付き、認知症など介護が必要となってしまっていたとしても、お金を得る楽しさと、社会参画にて注目される環境は大切ではないかとの思いから事業化した。

Q 「ハタラク」の事業効果はどうか。

A 働いている方には、働いているという意識をもってもらうために、お店のエプロンなどを着けて作業していただいている。就労しているという意識を持ち、社会とのつながりを感じられることから、身体的・心理的両方の面からしても、効果はとても大きいものと考えている。

## (2) 委員所見

健康寿命を延ばすことの意味はとて大きく、地域で生き生きと活動している高齢者が多くなることで、地域の見守りや防犯に大きな役割を担うと感じた。身体と心の自立で生きがいを感じてもらえる施策はとて参考になった。

また、要介護であっても、ありがとうと笑顔を求めて行政として支援を進めているが、要介護の高齢者は、お世話をされている人ばかりで、いつも他人に感謝し続ける毎日になりがちである。彼らが「ハタラク」に参加することで、人から、地域から、ありがとうと感謝される存在にしたい、それが彼らの希望に、そして笑顔につながると考えている、という岡山市保健福祉局としての強い思いを感じた。



(岡山市役所にて)

## 視察概要

### 1 視察先

兵庫県伊丹市

### 2 視察月日

7月22日（金）

### 3 対応者

伊丹市議会文教福祉常任委員会委員長（挨拶）

健康福祉部保健医療推進室健康政策課長（説明）

健康福祉部保健医療推進室健康政策課担当（説明）

### 4 視察内容

#### （1）健康長寿社会実現に向けた健康づくりの取組について

##### ア 介護保険サービス利用のてびき（高齢者施策ガイド）

介護保険制度の仕組みや、利用するまでの流れ、利用できるサービス等について、制度を網羅的に把握できるよう、冊子を作成している。基本的には冊子の情報のみで、介護保険サービスが理解出来るようなつくりとなっているが、相談窓口の体制や分布等についても記載し、体制を十分に整えることで、具体的な制度の説明がいつでもどこでもできるよう力を入れている。

##### イ いきいき健康新聞

市民向けの健康増進・介護予防等を目的として、いきいき健康新聞を発行し、自治会回覧のほか、市内の支所分室にも配架している。

新聞の内容としては、介護予防イベント、物忘れやフレイルチェック測定会、いきいき健康大学の取組、伊丹いきいき百歳体操の取組などについて紹介している。特に、伊丹いきいき百歳体操については、Zoomを利用して参加することとなっている。感染症流行下においても安定した活動実績となっており、参加者からも好評を博している。

##### ウ フレイル予防

伊丹いきいき百歳体操などに参加することがおっくうになる方については、一人でも簡単に実施できる「ながら筋トレ」を紹介するなど、誰もが簡単にフレイル予防できるような啓発を行っている。

また、体全体の筋力維持だけでなく、口の周りをよく動かし、

健康増進につなげられるような「あいうべ体操」や、食生活に関する啓発も行っている。

## エ 質疑概要

Q 介護保険サービス利用のてびき（高齢者施策ガイド）は、とても見やすく作成されているが、作成にあたって工夫している点はあるか。

A 1部単価67円と、コスト面も重視して作成している。必要とされる市民にしっかりと情報が届くように、1冊で情報が分かることを心掛けて作成している。

Q 伊丹市の要介護認定者数は近隣自治体と比べて多いのか。また、フレイルに対してどのような経緯で着目したのか。

A 伊丹市は現在1万人を少し超えるくらいの認定者数で、近隣の中核市の中では多い方である。一時、メタボリック対策が健康予防に重要と考え、それに関連した取組が多かったが、中年期と高齢期との身体を考えると、高齢期で急激に体力の低下などが起こり、要介護状態に入る前に予防して、健康状態に戻すことが重要であると、フレイルに注目して取組を進めている。

Q フレイル予防イベントの参加状況と参加者の感想はどうか。

A どのイベントも定員を超えるような参加率となっている。参加される方は意識も高く、日々の健康状況について確認しながら学ばれている。

## （2）委員所見

伊丹市のフレイル対策は、高齢者の健康寿命延伸という観点から、とても重要な予防施策だと感じた。中年期から高齢期へと年を重ねていく際、社会的な機能の低下は誰もが経験することだと考えられるが、特に問題ないだろうと、深く考えない方が多いのも実情である。その機能低下のサインを早期にキャッチすることがとても重要で、機能の維持を図り、健康状態を継続することが、介護予防に効果的であると感じた。



(伊丹市役所にて)